



行きたい場所を どうぞ

作 瀬戸山 美咲
演出 大谷 寛治 郎

製作意図 「人生の選択」「親ガチャ」というキーワードから生まれた物語です。

本当はたくさんの可能性があるのに、未来に希望を持たず選択肢を自ら狭めてしまっている青少年が多い今。

この物語では、何に対しても諦めがちだった高校生の光莉が車で道案内をするロボットの夕凧と日常の少し外側へと踏み出したことで、様々な価値観と出会い、「自分で選び、自分らしく生きること」をみつけていきます。たくさんのお会いの中で成長する光莉と夕凧。「諦めないで一歩でも前に踏み出したら何かが起こる！」窮屈な現代を生きる子どもたちと一緒に考えていけたらと思います。

美術 = 池田ともゆき
照明 = 松浦みどり
音楽 = 青柳拓次
音響効果 = 坂口野花
衣裳 = 宮岡増枝
舞台監督 = 青木幹友
製作 = 白木匡子 / 久保田敬博



感想 「あってもなくても良いものはあっちゃいけないの？」とか「1人で生きていけない人もしたい事していいと思う」とか、今の自分に刺さる台詞がいくつもあって何度も泣いてしまいました。(高校生)

ロボットと人間の共通の悩みを「命令で動くこと」として取り上げ、まったく違うと感じてしまう様々な問題が少しずつ重なり、交わり、共に解決に動き出す、そんな過程が美しくそれでいて複雑に描かれた、とてもおもしろい舞台でした。(高校生)

「行きたい場所が見つからない」というのは、進路選択を意識する高校2年生、3年生にとっては切実なテーマであると思います。また、主人公の「母の理想とする自分を打ち破ることができない」状況も、中高生が自身と重ねられる部分だと思いました。(大人)

あらすじ 近未来のとある駅。待ち合わせ広場に設置された道案内用 AI ロボット・夕凧(ゆうなぎ)は、この街のことなら何でも知っている。ある日、この街に引っ越してきたばかりの高校生・光莉(ひかり)が「ネラ」に行きたいと言ってきた。しかし、そこはデータにもなく検索しても引っつかからない…。

「一緒に探しに行きましょう！」

夕凧は「ネラ」の位置情報をアップデートするため、光莉の手をとり電車で飛び乗るのだった。こうして「ネラ」を探す旅に出たふたりは、道中で旅人と出会い、あるワイン農園にたどり着く。そこで「健康で文化的な生活」を求めるロボットと遭遇する――。

2023年
2月

紀伊國屋
サザンシアター
TAKASHIMAYA
にて 初演!!

